

令和六年度

青少年育成春日部市民会議

「少年の主張」作文集



青少年育成春日部市民会議

はじめに

「少年の主張」作文コンクールは、青少年が日頃考えていること、また、体験したことや感じたことを作文という形で表現することによって、青少年自らが、広い視野に立って物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会としています。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に対する大人の理解を深める契機としています。

市内小・中・義務教育学校に通う児童、生徒を対象に募集を行い、小学生の部から千九百四十六編、中学生の部から八百七十編の応募がありました。今年度においては、『平和への思い』や『生き方』、『将来の夢や希望』など、様々なテーマで深く考察された作文が集まりました。

応募作文の中から入選作品二十三編が選ばれ、その中から、最優秀賞一編、優秀賞五編が決定しました。この作文集は、最優秀賞、優秀賞の計六編をまとめたものです。青少年が心に抱く様々な主張を、多くの方にご一読いただければ幸いです。

目次

○ 少年の主張作文〈最優秀賞〉

みんなが希望をもって暮らせる世界に

春日部市立武里南小学校 六年 篠崎 春音

1

○ 少年の主張作文〈優秀賞〉

魅力あふれる本の世界

春日部市立上沖小学校 六年 新井 心晴

4

心と感じようを大切にして

春日部市立小渕小学校 四年 大橋 奈央

7

最高の人生にできるかい護士に

春日部市立南桜井小学校 六年 米沢 颯人

9

私の人生

春日部市立春日部中学校 二年 齋藤 莉央

11

今日をどう生きるか

春日部市立武里中学校 三年 宮本 ゆずみ

14

○ 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

17

少年の主張作文〈最優秀賞〉

みんなが希望をもって暮らせる世界に

春日部市立武里南小学校 六年 篠崎 春音

「もし世界が百人の村だったら。この村の住人のうち、男の人は五十人で、女の人は五十人です。十六人は栄養が十分ではなく、そのうち一人は死にそうなほどです。でも二十一人は太りすぎです。」

昨年、SDGsについて学んだ際、講師の先生が話してくれたある本の一節です。スクリーンに映し出される映像には、思いもよらない、ぼくの知らなかった世界の「現実」がありました。食べ物が一食しかない人や明日の食事を心配しなくてはいけない人たち。栄養不足により、命の危険にさらされている人たち。

「栄養不足の人がいるのは、食べ物の生産量が足りていないからなのでしょう。」
そう、講師の方がたずねました。答えは「いいえ」です。世界で一年間に生産される穀物の量は二十八億トン。これは世界の人たちが十分に食べられる量の二倍に当たるそうです。しかし、世界では毎年、食用に生産されている食料の三分の一に当たる十三億トンがゴミとして捨てられているそうです。あまりのショックに言葉が出ませんでした。ぼくは捨てている一人なのかもしれない。そ

う考えると胸のドキドキが収まりませんでした。

ぼくは、食料ゴミについて調べてみることにしました。ぼくのクラスでは、給食が残ることはほとんどありません。しかし、家の近くのゴミ捨て場をよく見ると、食べ物が散乱していました。中には、袋に入ったままくさってしまった野菜もありました。ぼくの家では食品ロスがあるのか疑問に思い、両親に聞いてみました。

「大体食べているけれど、絶対全部食べているわけではないよ。」

と教えてくれました。確かにぼく自身、食事を残してしまうことがあります。詳しく調べてみると、日本では、毎年捨てられる食料が二千七百七十五万トンあることや、その内、食べられるのに捨てられてしまう食料が四百七十二万トンもあることを知りました。これは、世界の食料援助量の四百八十万トンとほぼ同じです。この食べられるのに捨ててしまっている食料を不足している国の人たちの元に届くようにできれば、どれだけの人を救うことができるのでしょうか。

捨てられる食料の内、食べ残しが全体の三分の一を占めるそうです。食べ残しは食べる人が出すゴミです。誰でも食事をするのですから、この食べ残しはぼくたち一人一人の意識で減らすことができます。食べられる量を取り、残さず食べること。賞味期限の早いものから購入するようにすること。冷蔵庫の中を整理し、過じようなくわえを無くし、食べ切れる量を心がけること。考えれば、ぼくにもできることがたくさんあります。この一人一人の地道な心がけが、日本の「食品ロス」という問題に向き合う第一歩になると考えます。

S D G sの前文に「だれひとり取り残さないことを誓います」とあります。ぼくが今日を満足に

過ごし、明日に希望を持って過ごせるのと同じように、どの国に生まれても、どの立場でも、だれひとりとして変わらず安心して「明日」をむかえられる世界にしたいです。そのために、世界で起きている課題を自分事としてとらえ、自分にできることを探していきたいです。みんなが暮らす「地球」。この地球が将来にわたって、だれにとつても暮らしやすく、希望あふれる星として続くために、国や宗教、あらゆる立場を越えて、共に考え、協力していくことが必要です。ぼくもその一員としての自覚を持ち、「食品ロス」ゼロを目指して自分にできることから取り組みでいきます。

「もし世界が百人の村だったら。村の人々はみんなお腹が満たされ、明日を夢見て眠ります。」

そんな世界の実現は、ぼくたち一人一人の行動に委ねられているのではないのでしょうか。

少年の主張作文〈優秀賞〉

魅力あふれる本の世界

春日部市立上沖小学校 六年 新井 心晴

みなさんは、本を読むことが好きですか？私は本を読むことが大好きです。それは、本の世界にはたくさんの魅力があるからです。私は、その素晴らしい世界をみなさんにも感じてほしい。みなさんにもっと本を読んでほしいと思っています。

本の世界の魅力とは、どんなことだと思いますか。私は、「本を読むと自分にとって良いことがたくさんある」ということだと考えます。

一つ目の良いことは、「語彙力が上がること」です。私もたくさんの本を読み、ふだん使わないような言葉の言い回しやことわざ、四字熟語などを知ることができました。

二つ目の良いことは、「想像力が豊かになること」です。私は、本の中でも特に小説が好きです。小説は絵が少ししかのっていません。だからこそ、今はどういう場面なのか自分で想像しながら読みます。部屋の中の自分が、色々な世界や時代に行くことができます。想像して読むことが小説の面白さの一つです。さらに想像力が向上すると、アイデアや解決策を考え出す能力も身に付きます。この力はとても大切な力です。この他にも、コミュニケーション力が上がる、ストレス発散、視野

が広がる、やる気アップなどの良いことがたくさんあります。読書は、まさに「良いことづくめ」です。私は、本を読んできたことによって色々な能力が身に付きました。なにより、好きな作者もできました。好きな作者の作品にこだわって読むという楽しみ方もできます。

ですが、最近、特に学校で読書をしている人が少なく感じています。今は、SNSがふきゅうし、みんなが当たり前のようにスマートフォンやタブレットを持っています。その影響で、大人も子どもも本を手にすることが少なくなっているように感じます。スマートフォンやタブレットは、情報がすぐに手に入ったり、どこにいてもすぐに人とつながれたり、たくさん魅力があります。その反面、危険な目にあったり、人とのコミュニケーションが苦手な人が増えたり、依存症という病気になるってしまったりと大きな問題となっています。そんな今だからこそ、私は、みなさんに本を読んでもほしいのです。

みなさんと本をつなぐために、図書館でも実際に行っていることがあります。それは、「児童サービス」です。児童サービスとは、子どもと本を結び付けること、子どもたちが必要な情報にアクセスできるようにすること、そして図書館の使い方を指導することの三点の目的があります。そのために、読み聞かせ、読み手がお話を覚えて語るストーリーテリング、あるテーマをもとに複数の資料を紹介するブックトーク、事前に本を読み、その内容に関してゲームをするアニマニオン、おすすめの本の魅力を伝え、聞いた人たちで一番読みたくなった本「チャンプ本」を決めるビブリオバトル等の取り組みを行っています。どんな本を読んだらいいか分からない、本の面白さが分からないと思っている人は、ぜひ図書館に行ってみてください。本の世界の魅力を教えてもらうことが

できます。

私は、この図書館の取り組みに魅力を感じ、将来は、図書館で働きたいと思っています。そして、私も子どもたちに本の魅力を伝えていきたいです。大人、子ども関わらず、みんなが本を読み、「本って楽しいものなんだ」と思ってくれるような図書館を作っていきます。本が好きな人はより深い本の世界へ、本に苦手意識を感じている人も、本の世界への一歩をふみ出してみませんか。きっと本の世界はあなたへ素晴らしい時間を与えてくれるでしょう。

心と感じようを大切にして

春日部市立小湊小学校 四年 大橋 奈央

ある日、わたしはこんなことを考えました。「なぜ人間はいろんな気持ちを持つのだろう」と。まず、これをぎ間に思って、すぐに出た考えは「心が、いろんな気持ちを覚えて、習とくしている」というものです。例えば、家の人にほめられたら「うれしい」という気持ち、何か大切な物をこわしてしまった時の「悲しい」という気持ち、一生けん命がんばったのに負けてしまった時の「悔しい」気持ち。色々な経験をしながら、心が色々な感じようを覚えて、習とくしているのだと思いました。

感じようは、直せつ何かを言われた時に習とくするだけではなくて、だれかのやさしさが行動になつて、相手に芽生えさせることもあると思います。わたしが四年生になつて、まだ何日しかたつていない時、体育の時間にハードルにひっかかって転んでしまいました。ひざをすりむいて、いたくて泣きそうになっていると、二人の友達が走ってきて「大じょうぶ？」と心配してくれました。その時、わたしはほっと、安心したのを覚えています。そうした経験が、わたしの中に温かい感じようを生んで、わたしも同じ様に、「だれかを安心させてあげたい」という気持ちにさせてくれました。

でも、人はささいな言葉にきずつくこともあります。きずついた時の感じようは、悲しさやいか

りを生みます。わたしには、二つちがいの弟がいますが、いっしょに遊ぼうとした時に「やだ」と言われて悲しくなりました。「何でだろう。」「何かしちやったかな。」心配になって、「どうして」と聞くと、特に理由は無かったようで、その後いっしょに遊んでくれました。わたしの弟は、あまり考えないせいにかくで、その時の気分で、てきとうなことを言う時があります。わたしは弟のことが分かるから、「なんだ。いつものか。」と気持ちをすぐに切りかえることができましたが、出会って間もない友達では、こうはいきません。

「やだ」「つまらない」という言葉で悲しくなる時、いつそのこと「感じようなんて無ければいいのに」と思いました。でも、どうでしょう。人間に気持ちがなかったら、わたしはきっと、人生はつまらなくなると思います。何かをした時に、相手から何の言葉も返事もなかったら、わたしは悲しいです。ぎやくに、何かをしてもらった時に、自分が何も感じないなんて、とても冷たい感じがします。そんな人にはなりたくないです。気持ちががないなんて、まるでロボットのようだと思います。「うれしい」も「悲しい」も、「すてきだね」も「つまらかったね」も、人として、芽生えた大切な感じようだと思うのです。

「きらいだ」「つまらない」という気持ちは、あっても良いでしょう。それを思っていないと決められたら人間は苦しくなってしまう気がします。でも、それをどう表現するかは大事なのだと思います。そう考えると、人として、色々な気持ちを持つていたいし、相手のことを考えることのできる心を、わたしはこれからも大切にしたいと思っています。

最高の人生にできるかい護士に

春日部市立南桜井小学校 六年 米沢 颯人

あなたが、一番悲しかったことは、何ですか。ぼくは、ひいおばあちゃんが死んでしまったことです。昨年十一月に天国へ行きました。二年くらい前までは、遊びに行く料理を作って待っていてくれたり、楽しく遊んでいたのですが、急に周りの人の事が分からなくなって、老人ホームで暮らすようになりました。一度会いに行った事があるのですが、元気がなく、車いすに乗り、ぼんやりとしているだけでした。動画を送ってあげると喜んで見てくれた昔のひいおばあちゃんにもどってくれないかと願っていたのですが、その願いがかなう事はありませんでした。最後に会ったひいおばあちゃんを見て、ぼくも家族もとても心が苦しかったです。だからぼくは、人が死んでしまうまでの人生を最高のものにできるように仕事をしたと思います。

そこでぼくがやりたいと思った将来の夢は、老人ホームで働くことです。老人ホームには、自分の事がよく分からなくなってしまうっている人もいます。こうしたお年寄りの人でも、楽しく生活できるように老人ホームで楽しいイベントを開きたいしように考えています。お年寄りの人が楽しめるものは何かをよく考えてお年寄りの人に寄りそったイベントをしたいです。

また、お年寄りの人は、老人ホームに入ると、周りの人との関わりが少なくなってしまう。だから、イベントの内容に、地域の人々とたくさん関わってもらえるようなものを取り入れていき

たいです。そうすると、人との関わりも多くなるので、幸せに老人ホームでの生活を送れるのではないでしょうか。

そして、何よりも大切な事は、入居者の方一人一人と向き合う事だと思います。どんなに楽しめるイベントを開きにしても、楽しめない方もいるかもしれません。また、人と関わる事があまり好きではない方もいるでしょう。最高の人生は、人それぞれでちがうものです。だからこそ一人一人の気持ちをよく理解してあげる事が大事だと思います。今何がしたいのか、そのためにはどうしたら良いのかを考えたいです。老人ホームに入居されている方は意思が分かりにくい人もいます。ですが、それでも理解しようと努力していきたいです。自分の事を一生けん命考えてくれてうれしくない人はいないでしょう。だから一人一人の事を考えて、最高の人生にしてあげたいです。

このように、人が死んでしまうまでの人生を、最高の人生にするためには、相手の気持ちを考え理解していくことが、わたしは大切だと思います。だから、相手の気持ちを理解できるかい護士になりたいです。

私の人生

春日部市立春日部中学校 二年 齋藤 莉央

「自分には良いところがあると思いますか。」
毎年聞かれるこの質問。

「とてもそう思う。」

今年、私は迷わずそう回答していました。

今まで何度もされたこの質問。

「どちらかといえばそう思う。」

私は、少し悩みながらも何度もそう回答してきました。きっと、心のどこかでは自信を持って

「とてもそう思う。」

を選択したいと思っていたのでしよう。ですが、私は自信を持って自分の良いところを答えられずにいました。

私には憧れの友達がいいます。幼稚園の頃から一緒に、とても仲の良い友達です。その子は昔から何でもできました。頭が良く、運動もでき、字も絵もとても上手でした。さらに、他人の目も言葉も気にせず、自分を信じ、自信があつて堂々としています。私は、何よりその子の強くかつこい内面が大好きでした。そんな、いわゆる完璧な友達が幼少期からずっと身近にいた私は、いつから

か自分自身と友達を無意識に比べてしまっていました。成長していくにつれ、私は、この子のようにになりたい、変わりたいという気持ちが強くなっていきました。それからというものの、私は、自分がどうしたいかではなく、あの子ならどうするか、あの子のようになるにはどうしたら良いかという考え方が増えていき、自分にある、自分にしかない魅力に気がつけなくなっていました。変わりたいと一心に思うあまり、自分自身のダメなところだけを見つけ、落ち込み続けることが増えていきました。そんな日々は全く楽しくありませんでした。どんなに完璧でも、マイナスな部分に目を向け続けていれば、自分が満足する形にはならない、そう気がきました。何事も捉え方次第なのです。

私はそう考え始めてから、今の自分にあるものに目を向けるよう心がけていきました。完璧だけが楽しく、輝いている。そう考えると、その目標に届くまでの道のりや努力はとても苦しいものになります。そうではなく、目標に届くまでの道中を楽しむことができれば良いのです。幸せは一つではありません。私達が過ごしている日常には、小さな幸せがたくさんあります。それも、マイナスな部分に目を向けていたら気がつきませんでした。例えば学校生活。授業中に手を挙げて発表したが、答えを間違えてしまった。失敗したと深く落ち込んでしまうかもしれません。ですが、そうではないのです。自分を信じ、勇気を持って手を挙げたことが何より素晴らしく、かつこいのです。失敗なんてしていません。勇気を持って挑戦した自分をほめてあげれば良いのです。そして、そんな自分を好きになって良いのです。

物事は私が思っていたよりもいろいろな色でできていました。一度マイナスに捉えたことも、視

点を変えてもう一度見てみると、思いの外、前向きに捉えることもでき、成功になることもありま
す。

「自分には良いところがあると思いますか。」

という質問に、今年、私が自信をもって

「とてもそう思う。」

と回答できたのは、何事も前向きに捉え続けることができたからだと思います。これからも、小さな幸せを見落とさず、一度きりの人生に明るい気持ちで向き合っていきたいです。

今日をどう生きるか

春日部市立武里中学校 三年 宮本 ゆずみ

少し前に祖父が亡くなり、四十九日を迎えたので、家族でお寺に行きました。

「お経の準備をするので待っていてください」

と住職に言われて、部屋を移動し、各々雑談しながら待っていました。成人していないのは私だけだったので、大人の話にはついていけませんでした。叔父がお茶を淹れてくれましたが、私はお茶も苦手で、一口も飲めずにいました。なんだか色々と気を遣わせてしまっているなと思っていると、「あんたはお茶よりこっちの方が好きでしょ。」

と目の前にジュースが置かれました。声の主は住職でした。少し困惑していると、隣に座って、

「私は昔、中学校の教師だったんだけどね」

と話し始めました。ずっと一人で黙って座っているだけだったので、話しかけてもらえたのは本当にありがたかったです。最初に部活の話をしました。体育祭に向けて頑張っていることや、自分が部長を務めていることなど、楽しい話から始まりました。ただ、私は最近部活で悩みが多く、部員の仲間割れや陰口などで困っていました。住職はそんな私の悩みも真剣に聞いてくれて、教師目線でのアドバイスもくれました。

「教師はね、意外とそういう問題には触れてくれないんだ。」

幸い私の周りには親身になって問題を解決してくれる先生がたくさんいます。そのことを伝えると、それはいいことだね、と笑顔になりました。住職が教師だった頃も、周りに反発してなかなか扱いづらい人がいたそうです。

「難しいところだけどね。でも私はそういう子を助けたかったんだ。」

規模は違うけれど、同じく人をまとめる立場として、とても納得しました。

難しい話をした後は、修学旅行の話になり、楽しさが戻ってきました。みんなには内緒だよ、と言って面白い秘密の話をしてくれたり、実際の大仏を見て口をぽかんと開ける子どもたちの顔が本当に可愛いんだ、と思いい話をしてくれました。楽しそうに話す住職を見て、こっちまで楽しい気分になりました。だけど、世の中には本当に助けてくれない人もいて、事件のニュースで見る教師と住職のような教師、こんなにも違うのはどうしてだろうと疑問を抱くのと同時に、私も住職のような心を持って部をまとめられる部長でありたいと思いました。

しばらくしたあと、いよいよ四十九日の法要の時間になりました。さつきまで笑いながら楽しそうに話していた姿と打って変わって、お経を読む声にブレが無く、厳かな雰囲気に含まれていました。法要が終わると、家族みんなで別れを告げ、遺骨はお墓の中に入りました。もう二度と会えないけれど、住職の前向きな話を聞いていたからか、あまり悲しくはありませんでした。またどこかで祖父に会えるような気がしました。

今年、私は受験生で、考えてみれば最近マイナス思考になることが多かったです。学校でもみんな落ち着きが無く、気になる行動も増えました。私自身流されそうになることもありました。で

も、住職のおかげで自分の生き方を考え直す良い機会になりました。そして帰り際に、私の肩に手を当てる住職は言いました。

「自分に負けるな、自分に負けるなよ、それだけ。」

この言葉は、私の心に強く残りました。他の人がこの言葉を聞いたらどう思うかは分からないけれど、私はこれから、亡くなった祖父の分まで、昨日の自分に負けない今日を生きようと思います。

青少年育成春日部市民会議のあゆみ

平成八年度

- ・春日部市青少年健全育成推進会議設立（七月二十七日）
- ・かすかべ郷土かるた大会を推進会議と教育委員会との共催で実施（十二月十五日）
- ・捨て看板等の違法広告物撤去作業スタート（十二月二十日／平成十七年度まで毎年実施）

平成九年度

- ・ふれあい広場での非行防止啓発活動スタート（十一月二日）
- ・冊子「たいせつな家庭」作成・配布（平成十六年度まで毎年作成・配布）

平成十一年度

- ・市内幼稚園・保育園・保育所の園長・所長を交えて「家庭教育座談会」を実施（九月二十二日／平成十六年度まで毎年実施）

平成十四年度

- ・春日部市青少年健全育成基本条例施行（四月一日）
- ・第十回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月二十四日）

平成十六年度

- ・「青少年育成春日部市民会議」に名称を変更（四月一日）

平成十八年度

- ・第十四回かすかべ郷土かるた大会より、小学生の部、中学生の部に分けてトーナメント戦を実施（十一月十九日）

- ・青少年育成春日部市民会議設立十周年記念式典を開催（十二月十四日）

- ・青少年育成埼玉県民会議青少年育成成功労賞受賞

平成二十一年度

- ・シラコバト賞受賞（十一月十四日）

平成二十二年度

- ・第十八回かすかべ郷土かるた大会より、一部改定した新かるたを使用（十一月十四日）

- ・青少年関係団体連携活動講演会を開催し、ノーベル化学賞受賞者 白川英樹筑波大学名誉教授を講師に迎えた（一月二十三日）

平成二十三年度

- ・第二十回記念かすかべ郷土かるた大会より、ファミリーの部を創設（十一月十一日）

平成二十五年

- ・市民会議ロゴマークを制定
- ・環境浄化活動講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として俳優 藤岡弘、氏を迎えた（十月二日）

平成二十六年 度

・家庭教育講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として直木賞受賞作家 志茂田景樹氏を迎えた（二月十三日）

平成二十八 年度

・市民会議設立二十周年記念 青少年健全育成標語を募集

令和元 年度

・青少年健全育成講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として元FC東京社長、東京ガスケミカル株式会社常務取締役 阿久根謙司氏を迎えた（一月三十一日）

令和二 年度

・新型コロナウイルス感染症の影響により、第二十八回かすかべ郷土かるた大会を中止

令和三 年度

・環境浄化活動講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を、オンラインによる限定配信で開催し、講師として特非ASK 認定依存症予防教育アドバイザー 三森 みさ氏を迎えた

（二月二十日）

令和四 年度

・第三十回かすかべ郷土かるた大会を三年ぶりに開催（十一月六日）

・青少年健全育成講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を会場及びオンラインによる限定配信で開催し、違法・有害情報相談センター長 石原 友信氏を迎えた（二月二十日）

令和五年度

- ・第三十一回かすかべ郷土かるた大会を開催（十一月二十六日）
- ・家庭教育講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を開催し、特定非営利活動法人子どもと文化のNPO Art.31 大屋 寿朗氏を迎えた（二月四日）

令和六年度

- ・環境浄化活動講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を会場及びオンラインによる限定配信で開催し、埼玉県ネットアドバイザー 吉田 理子氏を迎えた（二月二十六日）

令和七年一月発行

編集・発行

青少年育成春日部市民会議